



〔海の状況(9/16~10/15)〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年よりはなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移した。(図1)
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて概ねかなり高め(平年差1.0℃~1.5℃)~はなはだ高め(平年差1.5℃~)で推移した。(図2)

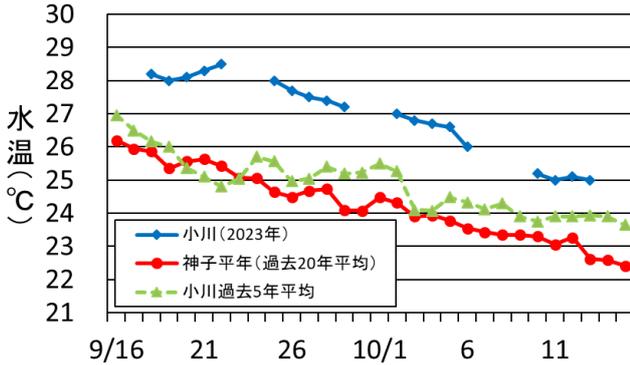


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

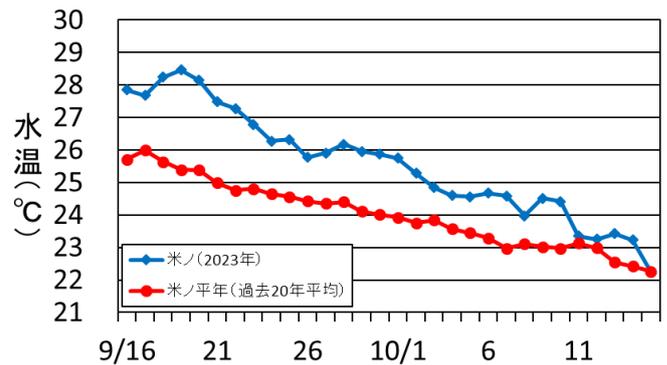


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※神子平年は1998年~2017年の神子地先の平均値である。
小川過去5年平均は2018年~2022年の小川地先の平均値である。

〔若狭湾および周辺海域の海況：9月〕

9月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0 m)では、若狭湾沿岸で28℃以上の範囲が大きくなっていた。水深50 mでは、若狭湾沿岸で18℃~20℃の範囲が三国沖まで張り出していた。水深100 mでは、若狭湾沖の12℃以下の範囲は出現しなかった。水深200 mでは、若狭湾沖で4~12℃の範囲が大きくなっていた。(図3)

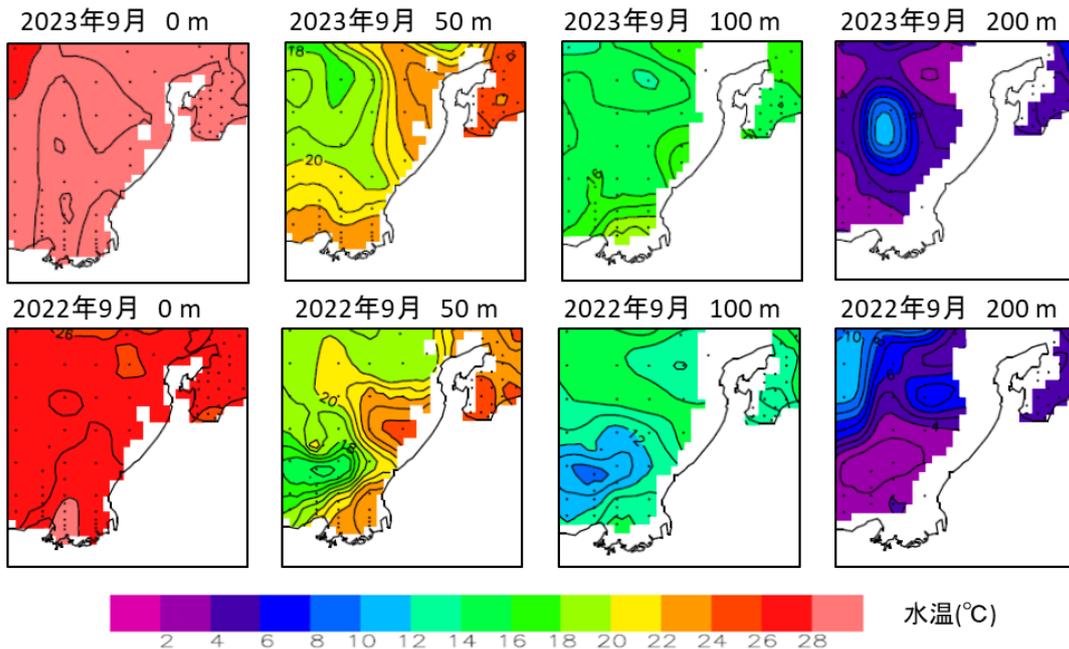


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

2023年度 第3回 日本海海況予報

国立研究開発法人 水産研究・教育機構から発表されました10月中旬～12月の予報のうち、本県に関する情報を抜粋してご紹介します。

- 山陰・若狭湾の冷水域の張り出しは、かなり小さくはなはだ離岸で経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、「かなり高め」で経過する。
- 対馬暖流域の水深50m水温は、日本海西部及び北部ともに「やや高め」で経過する。

この予報は国立研究開発法人 水産研究・教育機構のホームページ ([2023\(令和5\)年度 | 年度 | わが国周辺の水産資源の評価 \(fra.go.jp\)](https://fra.go.jp)) で閲覧できます。 (漁場環境グループ 梶原 大郁)

〔県内の漁模様：9月〕

2023年9月の県内の総漁獲量は823 tで、前年同月を76 t下回り、平年を334 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は585 tで、前年同月を97 t下回った。カジキ類、サワラ、ケンサキイカは上回り、アジ類、サバ類、フグ類は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は197 tで、前年同月を18 t上回った。アカガレイ、アカエビ、その他エビは上回り、キダイ、アナゴ、ニギスは下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は40 tで、前年同月を3 t上回った。キダイ、ケンサキイカ、サザエは上回り、スルメイカは下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網	(kg)				
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
アジ類	18,112	40,852	40,642	-22,740	-22,530
(アジ)	3,327	9,879	10,326	-6,552	-6,999
(小アジ)	9,961	28,880	28,567	-18,919	-18,606
(アオアジ)	4,824	2,093	1,748	2,731	3,076
サバ類	22,671	45,863	22,770	-23,192	-100
カジキ類	15,048	5,846	6,126	9,201	8,921
カツオ類	3,259	553	2,260	2,705	999
ブリ類	54,783	72,292	90,038	-17,510	-35,256
(ブリ)	88	41	119	47	-32
(ワラサ)	312	2,455	2,207	-2,143	-1,895
(ハマチ)	917	2,349	11,727	-1,431	-10,809
(ツバス)	46,565	63,593	53,798	-17,028	-7,233
(アオコ)	6,900	3,854	22,187	3,046	-15,287
ヒラマサ	4,274	2,292	7,420	1,983	-3,145
シイラ	266,289	274,963	154,050	-8,674	112,238
サワラ	155,612	135,524	448,093	20,087	-292,482
タイ類	2,165	3,076	3,661	-911	-1,496
スズキ	1,062	1,909	2,189	-847	-1,127
カマス	15,912	22,953	14,041	-7,041	1,871
フグ類	1,777	41,518	8,258	-39,741	-6,481
アオリイカ	4,160	5,347	7,304	-1,187	-3,143
ケンサキイカ	10,559	4,507	4,435	6,052	6,124
その他	9,656	24,643	19,696	-14,987	-10,041
合 計	585,337	682,139	830,984	-96,802	-245,647

底びき網	(kg)				
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
キダイ	3,300	5,758	11,310	-2,458	-8,010
カレイ類	53,165	40,810	89,910	12,355	-36,745
(アカガレイ)	43,252	30,337	66,433	12,915	-23,181
(その他カレイ)	9,914	10,473	23,477	-559	-13,563
アナゴ	2,539	3,765	5,086	-1,226	-2,547
ニギス	13,931	15,683	15,806	-1,753	-1,875
タコ類	1,010	916	4,237	94	-3,226
アカエビ	86,918	69,547	75,641	17,371	11,277
その他エビ	10,201	9,157	5,708	1,044	4,493
その他	26,295	34,039	63,010	-7,744	-36,715
合 計	197,359	179,676	270,707	17,683	-73,348

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
キダイ	9,172	6,114	6,501	3,058	2,671
アマダイ	2,904	2,317	3,839	587	-935
スルメイカ	4,233	5,326	9,092	-1,093	-4,859
ケンサキイカ	1,218	216	1,479	1,002	-261
タコ類	1,615	735	2,856	879	-1,241
サザエ	5,054	3,663	3,848	1,392	1,206
その他	16,014	18,795	27,873	-2,782	-11,859
合 計	40,209	37,167	55,487	3,043	-15,278

全漁法	(kg)				
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
合 計	822,905	898,981	1,157,178	-76,076	-334,273

※1 平年の値は2013-2022年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄です。その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
 ※3 サザエの平年値は2014-2022年の9年平均です。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：9月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：9月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ類6.7 t、フクラギ・コゾクラ6.7 t、シイラ2.3 t、マアジ0.7 t、カマス0.5 t
 京都府…定置網…ブリ類9.7 t、シイラ5.4 t、サワラ類5.3 t、カマス2.2 t、サバ類1.0 t、マアジ0.6 t
 兵庫県…定置網…ツバス83 kg、マアジ79 kg、カマス16 kg、スズキ15 kg、シロイカ12 kg、シイラ11 kg
 鳥取県…まき網…マイワシ42.8 t、ウルメイワシ18.6 t、ブリ類4.3 t、マアジ3.9 t、マサバ2.0 t

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に福井が誇るブランド「越前がに」漁の解禁を迎えます。6月に調査船「福井丸」で実施したトロール調査結果等を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向（図1）

福井県のズワイガニ漁獲量（県底曳網漁業協会集計）は、最低であった昭和54年度以降は増加傾向となり、近年は400t前後で推移しています。令和4年度の漁獲量は414tで、カタガニ、ミズガニ、セイコガニのすべての銘柄の漁獲が好調に推移したことにより令和3年度を56トン上回りました。

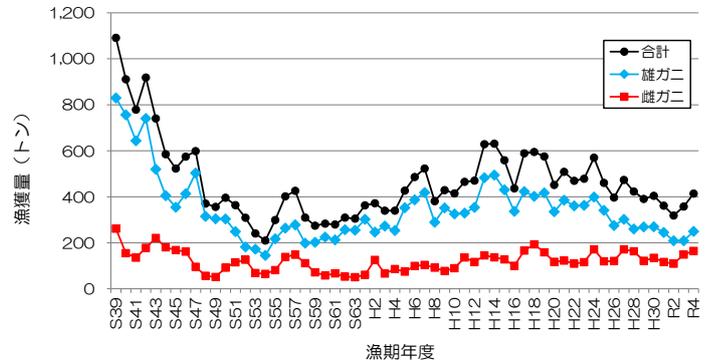


図1 ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況（図2）

雄についてみると、今漁期の漁獲の主体となる12歳・13歳のうち、13歳の資源水準は昨漁期並みであるものの、12歳は昨漁期よりも高い状況にあると思われます。また、今漁期から小型の水ガニとして漁獲の対象となる11歳の資源水準は昨漁期より高い状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄の資源量を推定したところ、3,348tと算出されました。

雌についてみると、昨年引き続き資源量が高かった年級群が漁獲対象に加わったことにより、今漁期の漁獲対象となるクロコ（経産ガニ）の資源水準は高い状態に維持され、資源量を推定したところ1,001tと算出されました。

また、雄雌ともに、来漁期以降に加入する10歳未満の資源水準も比較的高い見込みであることから、これら加入する個体を保護することが大切になります。

まとめ

今漁期の越前がに漁は、漁獲サイズまで成長した若齢個体の資源状況も良く、安定した漁獲が見込まれます。

（漁業管理グループ 松宮由太佳）

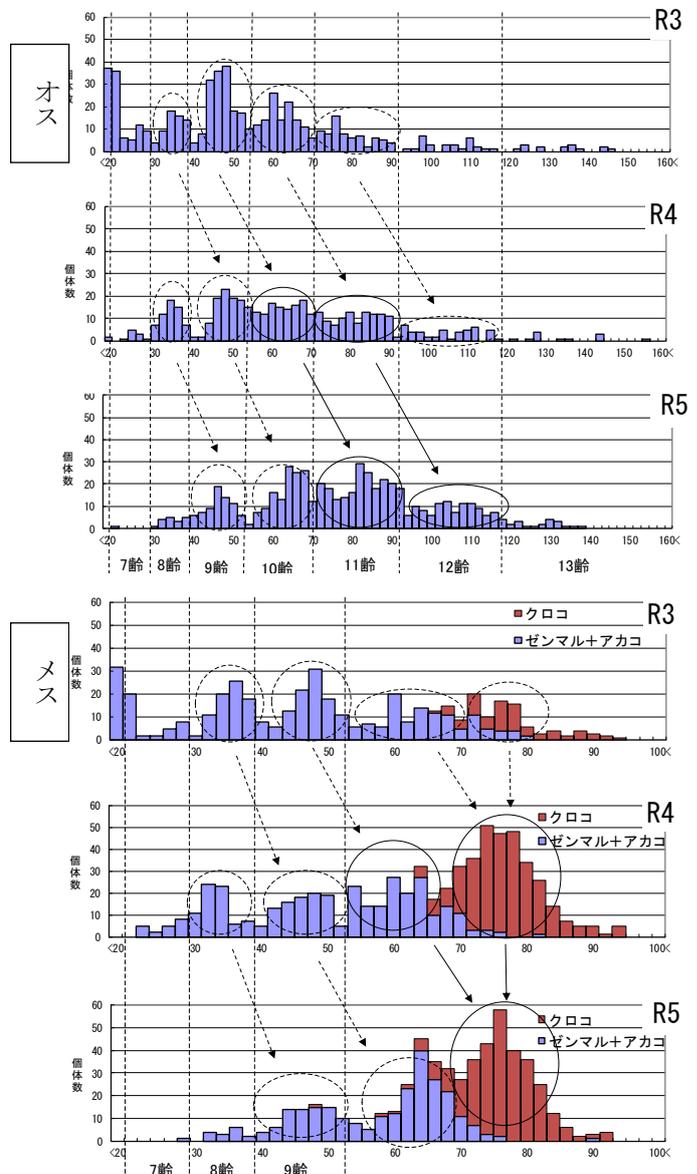


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成（横軸：甲幅 mm 縦軸：個体数）